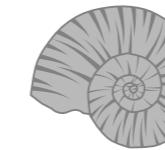




地質館だより



寒菊と菊花石

2月は、暦の上では春を迎えるながら、まだ冬の冷たさが残る不思議な季節です。このはざまの季節にふと心に浮かぶのが、一瞬を生きる寒菊と、永遠を宿した菊花石です。

霜の降りるころ、庭の片すみにひっそり咲く寒菊は、朝夕の冷気に震えながらも、短い時間を精いっぱい照らす小さな灯のようです。新年の決意が早くも揺らぎはじめる2月に、「今この瞬間に咲けばいい」とそっと背中を押してくれる花でもあります。

一方、昨年当館に寄贈され、新たに展示室に加わった菊花石は、1億年以上前、地下深くで鉱物が高温高圧の環境のもとゆっくり成長して生まれました。石の表面にあらわれる結晶の模様は、まるで菊の花が石の中で静かに咲き続けているかのようです。その気の遠くなるような時間と思うと、私たちの一年の迷いや焦りは、ほんの一瞬のきらめきにも思えます。

一瞬の寒菊と、永遠の菊花石。その対照的な二つの「花」を思いながら、冬と春のあいだをたゆたう2月の午後、どうぞ地質館の展示室をのぞいてみてください。まだ冷たい空気の中で過ごすひとときが、あなたの新しい一年に、静かな余韻を残してくれるかもしれません。

2月の地質館イベント

2月22日（日）11:30～&14:30～（10分程度）展示解説「菊花石」



菊花石

青山文庫だより

生誕150年記念企画展「広瀬東畝」はじめました

今回紹介する企画展のタイトルにしている画家・

広瀬東畝は、明治8（1875）年内原（現佐川町上郷）に生まれました。東畝は画家として名乗つた号で（他にもあります）、本名は広瀬済といま

す。

「土陽美術」という雑誌に記載されている本人の述懐によると、幼少時から絵画を見たり、描いたりすることが好きで、「虎は死しても皮を残し、人は死しても名を残す」という言葉に感銘を受け、画家を目指したといいます。

この言葉は、「虎が死んでも立派な毛皮を残すように、人も死後に優れた名声で語られるような生き方をするべきだ」というような意味です。

東畝が生まれ、多感な時期を過ごした明治時代初期から中期は、日本に西洋文化が入ってきて、社会全体が近代化という急変に対応しなければいけない時代でした。

初期は外国人に頼らなければできなかったことを中期には日本人ができるようになっている、つまり、世界の中の日本の立ち位置を意識しながら、日本の技術力を西洋風に高めていった時期だったのであります。

各分野で日本を背負つて奮闘努力した先人たち（近しい事例を挙げれば、「近代土木の先駆者」と称された広井勇のような人たちです）が、日本の近代化を急速に推し進めたのです。



広瀬東畝筆「梅に雉子」

○企画展「田中光顯が残したもの～志士たちの遺墨～」
○生誕150年記念企画展「広瀬東畝」
○小展示「植物学者・牧野富太郎」
開催中～3月15日（日）

（藤田有紀）

〈展示案内〉

○企画展「田中光顯が残したもの～志士たちの遺墨～」
○生誕150年記念企画展「広瀬東畝」
○小展示「植物学者・牧野富太郎」

開催中～3月15日（日）

広告

あなたらしい生活を応援します♥ ケアセンターさかわ

□ 居宅介護支援（ケアマネージャー）

管理者：徳弘 和義 主任：尾崎 俊一郎
山下 美智、豊田 薫、岡林 真理
梅原 艶、中平 紗綾、岡林 利美

□ 訪問介護・訪問入浴介護（ホームヘルパー）

管理者：山本 君子 主任：片岡 佐与
他 ホームヘルパー 26名



ご相談ください。
0889-22-0622

ケアセンターさかわ総勢36名で丁寧な対応を心がけ、皆さんの生活を支援させていただきます。介護の不安等ある方はご相談ください。

桜座

Information 2月号



「荒野に希望の灯をともす」

2月 11日（水・祝）

① 10:00～ ② 14:00



「九十歳。何がめでたい」

2月 15日（日）

① 10:00 ② 14:00



「杜人 (もりびと)」

2月 28日（土）

① 10:00 ② 14:00 ③ 19:00

前売券販売終了のため、当日券のみ桜座で販売です。一般：1,200円 高校生以下：1,000円

※未就学児無料 ・障がい者手帳所持者とその介護者（1名）は2割引 ・全席自由

・開場は上映時間の30分前

※お詫びと訂正：先月号での映画上映会の記事に下記のとおり誤りがありました。

お詫びして訂正します。誤) 宮沢亮 正) 吉沢亮